

編集後記

せいの看護学会誌にご投稿や読者でいらっしゃる皆様に心よりお礼申し上げます。お手元に届く学会誌は、研究者・共同研究者・研究対象者・病院や施設など多くの方々のご協力と温かい支援、さらに指導教授や査読委員等の助言や指摘が研究成果に結実したものであり、実践を重んじる『せいの看護学会誌』ならではの香りと豊かさ・正確精密誠実さが込められているものと自負しています。この『せいの学会誌』が皆様のお手元に届きます頃には、涼しい夏風が背（せな）や足元を通りぬけ、夏日や猛暑がいくらかでも遠のき涼しさが感じられるようになりますようにと願っています。まだコロナは十分には落ち着いていませんが、皆様方にはどうか新しいお時間を作っていただき、活動に満ちた2022～2023年度の残りの月日の充実を求めて・わくわくする素晴らしい時間に転回発展していかれますようにと期待しています。

ところで、皆様方はすでにご存じのこととは思いますが、論文作成の前に必要なこととして、研究にとりかかる前段階が重要なことを強く認識していただきたいことです。研究の目的は何か、何を明らかにしたいか、結果はどのように生かすことができるか等等、さらにそれらを追求するための行動計画を綿密に具体化しておくことが必要です。例えば、文献検討は十分か、測定技法やインタビュー技法はデータを正確にとるために十分か（資格の取得や講習会への参加等）、個人情報保護に関する備えは十分か、研究協力施設の許可や職場の同意は得られているか（利益相反への対応）など。時に、『終わりよければ全てよし』と言われることがあります。研究においては簡単にこの言葉を使うことには危険を感じます。研究ではプロセスも大事だと考えます。何を明確にしたいか、どのようなプロセスや方法を用いるのかなど、研究デザインを考えて取り組むことが必要です。『初めに終わりを思え』という言葉（聖句／誰かの言葉かを認識していません）は私の座右の銘です。皆様の貴重な研究の時間が有効に生かされますように『準備を整え、計画的に進められ、期待する結果が得られます』ことをお祈りし・期待しています。（文責：山下香枝子）

「せいの看護学会」編集委員会

委員長 ————— 久保田君枝

委員 ————— 宮谷 恵、山下香枝子、天野 薫

<事務局> 神崎江利子、小出美美子、氏原恵子、早川ゆかり、岩瀬美保、山崎淑恵

<会計> 村松恵美、山本智子

※本学会誌に掲載された論文等の著作権はせいの看護学会に帰属する。

せいの看護学会誌*

Journal of Seirei Society of Nursing Science

第14巻 第1号 2023年9月1日発行

発行 せいの看護学会

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453

聖隷クリストファー大学内

FAX 053-439-1406

印刷 松本印刷株式会社

〒435-0048 静岡県浜松市東区上西町8の3

TEL 053-464-8359